

地域再生計画評価調書(地方創生推進交付金事業効果検証調書)

地域再生計画の名称	今治型産業クラスター構築計画	地域再生事業の名称	今治型産業クラスター構築事業	平成29年度評価
-----------	----------------	-----------	----------------	----------

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

評価指標	基準年数値	目標数値、実績値及び目標数値に対する達成度				達成度についての分析
			2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	
目標1 輸送用機械器具、繊維製造品出荷額	3,674 億円	目標	+147 億円 (3,821 億円)	+153 億円 (3,974 億円)	+159 億円 (4,133 億円)	+459 億円 (4,133 億円)
		実績	▲232 億円 (3,442 億円)	—	—	▲232 億円 (3,442 億円)
		達成度	▲157.8%	—	—	▲157.8%
目標2 輸送用機械器具製造業従業者数 繊維工業従業者数	6,052 人	目標	+237 人 (6,289 人)	+237 人 (6,526 人)	+237 人 (6,763 人)	+711 人 (6,763 人)
		実績	+709 人 (6,761 人)	▲97 人 (6,664 人)	—	+612 人 (6,664 人)
		達成度	299.2%	▲40.9%	—	86.1%
	3,056 人	目標	+12 人 (3,068 人)	+12 人 (3,080 人)	+12 人 (3,092 人)	+36 人 (3,092 人)
		実績	+45 人 (3,101 人)	—	—	+45 人 (3,101 人)
		達成度	375%	—	—	125%
目標3 中心市街地の歩行者と自転車の通行量(人/日)	2,566 人	目標	+102 人 (2,668 人)	+102 人 (2,770 人)	+102 人 (2,872 人)	+306 人 (2,872 人)
		実績	+41 人 (2,607 人)	▲38 人 (2,569 人)	—	+3 人 (2,569 人)
		達成度	40.2%	▲37.3%	—	1.0%

評価年度において実施した事業

事業名	繊維染色加工業の基盤強化事業	総合戦略における位置づけ	基本目標:1. だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る 具体的施策:(ア)海事とタオルのまちづくり 取組:①次世代の人材育成	事業費	14,000千円
事業概要	産官の連携により平成28年度において組織された「繊維染色産業基盤強化検討委員会」により、昨年度決定された方向性を機軸として、平成29年度においても引き続き同委員会による検討を深め、その成果として、平成29年12月および2月に「IMABARI Color Show」を開催した。 この展示会は、愛媛県繊維染色工業組合が今治市内外に向けて今治地域の繊維染色産業を広く認知させ、今治タオルの品質を支える技術を発信することや、その職業価値の向上を図ることを目指し実施したものである。(一社)日本流行色協会の大澤かほる氏の指導により、繊維染色工場の経営者や社員、行政の職員などで構成されたプロジェクトチームがワークショップ等を通じて提案した「今治の色」の発信や染色技術の特別展示、デザイナーであるエマニュエル・ムホー氏の「1000色のレシビ」というインスタレーションを披露した。				

事業効果		<p>インスタグラムにおける「インスタ映え」を通じた、高いPR効果や、来場者による情報発信を含め、普段触れることのない繊維染色業に対するイメージアップを大幅に図ることができた。</p> <p>また、特に今治会場においては、その地の利を生かすことで、繊維染色工場の一般見学会や染色体験を実施し、今治地域の児童や生徒をはじめとした市民に対して、繊維染色業に対する理解促進を図るとともに、子どもたちに対するキャリア教育へと繋がる、効果的な事業を実施することができた。</p> <p>○繊維染色工業産業基盤強化事業(事業主体:愛媛県繊維染色工業組合) 繊維染色産業基盤強化検討委員会 H29.4~H30.3(年8回開催)</p> <p>I ブランド戦略…愛媛県繊維染色工業組合ブラッシュアッププロジェクト基本計画 策定(H29.6)</p> <p>II オリジナルブランド発信事業…「今治の色」発信事業(セミナー1回、ワークショップ2回開催)、2017年の「今治の色」として6パターンを決定。</p> <p>III 見本市出展事業…「IMABARI Color Show」東京青山展(H29.12.7~12.10)来場者5,035人</p> <p>IV 今治凱旋展示事業…「IMABARI Color Show」今治展(H30.2.2~2.12)来場者6,794人</p> <p>(開催主旨:今治地域の染色技術を紹介する大規模な展覧会。著名なデザイナーにメインインスタレーションを依頼し、染色技術を視覚的に表現。合わせて「今治の色」と染色技術を特別展示。)</p> <p>V オープンファクトリー事業…「IMABARI Color Show」と合わせて、①染色工場見学(4工場)、②染色職人とのランチミーティング、③染色体験ワークショップを開催。参加者27名(事前応募制)。H30.2.3開催。</p> <p>VI 広報事業…「IMABARI Color Show」に絡め、Webサイトの開設、ポスター、チラシ、のぼりの製作、掲示を実施した。</p>			
事業名	いまばりシティクライヤー設置事業	総合戦略における位置づけ	基本目標:1. だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る 具体的施策:(イ)地域の企業・産業が成長するまちづくり 取組:④シティプロモーションの推進	事業費	3,001千円
事業概要		<p>都市部への情報発信の機会が多い市民等を、「いまばりシティクライヤー(今治市の魅力や情報を発信する市民)」として任命し、本市の産業、観光及び文化等の魅力をそれぞれ独自の方法で全国に拡散してもらうことで、本市の知名度及びイメージの向上を図る。平成28年度には各界著名人に就任を依頼し、市の地域資源・観光資源等の魅力発信の契機として活用してもらうためシティクライヤー用カード(産業情報等をQRコードにて入手可)を作成した。平成29年度は、昨年度就任いただいた各界著名人に引き続きシティクライヤーとして活動してもらうとともに、シティクライヤーの一般公募を開始し、併せて今治市が舞台となった小説や映画等のロケ地を紹介するフリーペーパーを作成したことで情報発信力が向上した。また一般公募によりシティクライヤーに登録された方から活動報告を受け、シティプロモーション活動の拡充を図った。さらに、市内高等学校卒業生にシティクライヤーカードを配布し、就学・就職先で活用してもらうなど、若者のフットワークを活かした情報発信を図った。</p>			
事業効果		<p>昨年度依頼した20名の今治縁の著名人に、人的ネットワークを活用して引き続き活動いただくとともに、今年度はシティクライヤーの一般公募も開始し、19名が新規に参加することとなった。併せて今治市を舞台とした小説や映画等のロケ地を紹介したフリーペーパーを作成した。以上から、より多様な相手方へのPRが可能となり、情報発信力が向上したことに加え、一般公募によってシティクライヤーに登録いただいた方から、活動を通じての意見等を報告してもらうことで、今後のシティプロモーション活動に資する情報収集を行うことができた。また、市内高等学校卒業生にシティクライヤーカードを配布したことで、愛郷心を育むとともに、若者のフットワークを活かした情報発信が行われた。</p> <p>■登録者:岡田武史(株今治・夢スポーツ代表取締役会長)、伊東豊雄(建築家)、MAYA MAXX(画家)、青野慶久(サイボウズ株)、檜垣幸人(今治市海事都市交流委員会会長)、近藤聖司(今治タオル工業組合理事長)、徳永純司(パティシエ)、他(平成28年新規登録者20名、平成29年新規登録者19名、合計登録者39名)</p> <p>■クライヤーカード作成数37,500枚(シティクライヤー1人あたり100枚(追加印刷含む)、市内高等学校卒業生1人あたり10枚)</p> <p>■シティプロモーションフリーペーパー(「今治スタイル」)作成数 10,000部(原本添付:「今治スタイル」ロケーション編)</p>			
事業名	日本遺産を活用した観光商品造成支援事業	総合戦略における位置づけ	基本目標:3. だれもが訪れたいと感じる魅力あふれるふるさとを創る 具体的施策:(ウ)広域観光周遊ルートの形成 取組:①広域観光周遊ルートの形成	事業費	10,919千円
事業概要		<p>今治市大島の宮窪町漁業協同組合が主体となって、村上海賊の能島村上氏の本拠地・能島を周遊する「能島水軍潮流体験船」を運航している。平成28年4月に村上海賊が日本遺産に登録されたことがきっかけで全国的に注目度が増し、観光客の増加で嬉しい悲鳴を上げる一方で、団体客の受入困難など、利用者のニーズに対応できない状況となっていたため、潮流体験船の新造船整備について宮窪町漁協を支援し、より多くの観光客の受入れを図るもの。(新造船の概要:4.9トン・60人乗り)</p>			
事業効果		<p>既存体験船と新造船とで、2隻運航が可能になり、これまで、困難を極めていた一般客と旅行ツアー会社の予約客・団体客とのブッキング調整が解消され、さまざまな状況に対応できるようになった。</p> <p>■長時間を要する能島上陸ツアーと通常の能島周遊運航を同時に提供することが可能になるなど、ツアー会社と一般客との棲み分けができるようになったばかりでなく、今後は、新しく魅力ある企画アイデアを幅広く具体化させることができるようになる。</p> <p>■効率のよい運航が可能になり、利用者の待ち時間の短縮や希望時間での運航が可能になり、満足度と共に、リピーターの増加が見込めるようになった。</p> <p>■以前は断ることも多かった修学旅行生などのバス数台を擁する団体客の受入が可能になり、就学中に歴史文化を目の当たりにできるだけでなく、アトラクション要素も含まれているため、楽しく学べる体験を提供できるようになった。</p>			

事業名	中心市街地活性化事業の展開	総合戦略における位置づけ	基本目標:4. 中心部と周辺部が連携した日本でいちばん住みたい地域を創る 具体的施策:(ウ)中心市街地の再生 取組:①中心市街地の再生	事業費	10,100千円
事業概要 資金を循環させ、商店街の自立的な経済活動を促進するため、商店街の中で消費活動やコミュニティ活動を活発化させることが重要である。そこで魅力ある商店街を実現するため、今治市中心市街地再生協議会を事業主体として、空き店舗となった店舗併用住宅の「商住分離」を行い、店舗機能のみ賃貸できるようにする等、商業空間の活性化対策を検討するとともに、まちなか交流スペースへの転換も進める。また商店街既存店舗の新陳代謝を促すため、商工会議所等と協力して、商店街で創業・起業する意欲のあるものを支援する。(原本添付:今治市まちなか商業活性化(出店)事業補助金チラシ)加えて、国体期間中において、クーポンを活用した「まちバル」を実施することで、中心市街地を今治の食文化の発信拠点とする取組を実施する。 ■まちなか活性化サロン「ぷらっと」運営 ■まちなか居住支援事業 ■まちなか移住交流推進事業費補助金(NPO法人 シクロソーリズムしまなみ) ■国体バル推進事業					
事業効果 第2期今治市中心市街地再生基本計画に基づき、今治市中心市街地再生協議会の事業として以下の事業を実施した。 ■まちなかでのイベント等観光情報や空き店舗情報等を収集分析し、情報を必要とする方へ正確に提供するためのサービス拠点として、中心商店街(常盤町2-1-1)に開設したまちなか活性化サロン「ぷらっと」を運営。 ■まちなか居住センターの設立に向け、中心市街地再生協議会内にまちなか居住支援委員会を設置し、まちなかの不動産情報の掘り起こしと一元化を行った。商店街内の空き店舗調査を行った上で、今治宅建協会並びに全日本不動産協会県本部から推薦のあった10社とともに、不動産情報の公開に向けた精査を行い、9件(うち6件商店街)を登録した。 ■地域活性化を学ぶ学生、移住希望者を対象に、2週間から1ヶ月滞在できるサイクルオアシス総合拠点「シクロの家」を住まいとして提供し、お試し居住することで地域の風土に触れる機会を提供した。(訪問相談:14名、お試し居住者:7名、移住者2名) ■「お試し居住」希望者が、今治市での働き方、暮らし方を体感する機会とするため、企画段階から参画する交流サイクリングツアーを催行した。(ツアー回数:8回、参加者:延べ126名) ■えひめ国体開催期間中、まちなかをはじめとする全市の飲食店や観光施設が割引利用できる「クーポン」を発行し、市内外からの国体観戦者に飲食店等の情報を提供した。(参加店舗・施設:98、配布冊数3万部)					

外部有識者からの意見 <input checked="" type="checkbox"/> 総合戦略のKPI達成に有効であった <input type="checkbox"/> 総合戦略のKPI達成に有効とは言えない (意見) 繊維染色加工業の基盤強化事業においては、職業価値向上についての取組はこれまでにないものであり、技術力等のPRができたことについては画期的であると考えられる一方で、課題解決のためにも事業の効果検証をしっかりとって取組の参考としていく必要がある。 また、中心市街地活性化事業においては、『ぷらっと』などの取組について、事業効果や市民の周知状況など検証を実施し、今後につなげていく必要がある。	
--	--